

静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2023/04/1ver)／アクションプランシート（スポーツ科学部）

スポーツ科学部	基本方針	2022年度スポーツ科学部は組織の能力向上と確立を図り、多角的に準備を行い2024年の完成年度を無事に迎えることを基本方針とする。 ①スポーツ科学部運営委員会、将来構想ワーキンググループ、各委員会活動を通して、経営学部と協働してスポーツ科学部の組織的活動を確立する。 ②半期ごとのPDCAサイクルを基本として各課題の可視化を図る。 ③磐田市や静岡県などとの地域連携を積極的に進める。				
	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	<p>1. 2024年度入学者の安定的確保</p> <p>1)入試制度を確実に実行し、定員120名を確保する</p> <p>2)入試種別ごとの目標値を定めるとともに、スポーツプレゼンテーション入試の推進を図る</p>	<p>1.2.</p> <p>2023年度は155名の入学者がおり、そのうち県外からは45%であった。</p> <p>2024年度入試においては、県外者・女子の増員に努め、12月中の定員確保を目標にする。</p>	<p>1.2.</p> <p>2024年度入試の12月中の定員確保に向けて、オープンキャンパス（以下、OCと略す）参加者確保に努める。6月・7月は順調である。</p> <p>年内中に定員120名の確保を最低目標に掲げている。さらには、中期的展望に立って、定員数の安定的確保に向けての施策を検討している。</p>	<p>1.2</p> <p>年内入試での定員確保は達成された。入試種別の増減に傾向を受け止め、2025年度入試の対応策を検討する。</p> <p>年内入試での学生募集を重視し、定員確保という目標は達成されている。指定校推薦入試の拡大が功を奏していること、総合型入試も微増していることが定員確保につながっていると思われるが、スポーツプレゼンテーション入試とスポーツ推薦入試では、目標値を下回る状況である。</p>	<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●副学部長（和田）</p> <p>△入試課（齊藤）</p> <p>△広報・メディア課（佐野）</p>	<p>県外の募集を重点化する。特に、静岡空港発着の「北海道・福岡・熊本・鹿児島」等にコンタクトする。</p>
	<p>2. 学生確保のための広報・募集活動の実施</p> <p>1)入試広報における、Web、SNS等デジタル情報の提供の充実を図る</p> <p>2)入学者実績高校への訪問を行う</p> <p>3)静岡県内外や女子高校生への広報活動を積極的に行う</p> <p>4)スポーツ科学部と経営学部の差異を明確に示すよう広報に努める</p>	<p>スポーツ科学部と経営学部の差異化を図った入試広報が必須であり、最大限のwebの活用やオープンキャンパスや出前授業の工夫も図る。</p>	<p>2023年度入試広報は、上半期から夢ナビや映像のweb発信ができた。さらに、12月9日開催予定の「静岡産業大学ダンスのタペ：ダンスダンスダンス」の出演高校等も含め、特に女子高校生への入試広報を行った。</p> <p>学生募集にとって有効な入試広報とは何かをめぐって入試委員会を中心に検討を重ねている。特に県外生の割合が増加しているところから県外高校への周知をさらに強化し、指定校枠の増枠やオンラインでの模擬授業の拡大を諮っている。</p> <p>女子学生の占有率が低く約20%程度で推移しているところから、これを30%に近づけるようにHPや学部リーフレットなどでも対応を考えている。</p>	<p>10月「トレーニング科学会」、11月「シンスポーツinいわた」、12月「ダンスのタペ」開催により、広報の新展開ができた。「ダンスのタペ」には、西部地区の女子高校生が100名ほど参加した。本学に興味を持ち受験に繋がることを願っている。また、2024年度には、トレーナー、野球、スポーツ経営部門を専門とする教員3名を新規採用予定であり、これらの部門領域の広報が期待できる。</p> <p>従来型の広報はもちろんのこと、webを最大限活用した広報のありかたなど、現状の高校生に対して何が有効なのかを模索しながら検討しているが、学部独自の広報や財源の確保面において不十分な傾向が続いていることが課題としてあげられる。</p> <p>女子学生の占有率は、依然として20%程度であり、学生募集の継続課題である。女子学生の増加の解決として教育施設の改善、キャンパス全体を含む地域環境の改善、女子学生に適したカリキュラムや学習内容の改善、教職員全体の配置など提言は出しているものの、それらを本気で取り組む姿勢が見られないところに大きな問題があると考えられる。</p>	<p>12月26日「ダンスのタペ」開催が決定し、さらに広報展開に期待している。</p>	

	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p>3. 認証評価の準備</p> <p>1)4年間のアフターケアに十分応えられるような実績評価の基準作成と評価法の策定を図る</p> <p>2)教員各自が「教育・研究・大学貢献・社会貢献」を計画的に立案する</p>	<p>3.</p> <p>文科省のアフターケアへの対応は2022年度の“履修状況報告書”において、指摘事項はなかった。2023年度においても昨年と同様に作成・提出する。</p> <p>2022年度に実施された認証評価に関しては、施設を活かした授業展開や冠講座が評価された。2023年度の冠講座では静岡ブルーレヴズが加わるため、さらに多様な実学教育を実施する。</p> <p>教員人事評価については、学部長面接を4月早々に行い、教員各自の2022年度の振り返りと2023年度の計画立案の契機とする。</p>	<p>3.</p> <p>文科省のアフターケアへの対応は2023年度の“履修状況報告書”を提出した。2023・24年度の経営学部の入学生の減少が、アフターケアに影響しないかを検討している。</p> <p>教員各自の研究業績を上げ、カリキュラムポリシーの達成が学部の社会的評価に繋がると考え、対応中である。</p> <p>2022年度の認証評価で高評価だった、施設を活かした授業展開や冠講座は引き続き積極的に実施した。後期からは、初めて静岡ブルーレヴズの冠講座が加わり、さらに多様な実学教育が実現できる。</p> <p>教員人事評価は学部長面接を4月早々に行った。教員は2023年度の計画に従い、実践している。</p>	<p>3.</p> <p>文科省のアフターケアへの対応は、2024年度の経営学部心理経営学科の学生数の確保が見込まれ、充足されることから指摘される影響は少ないであろう。</p> <p>教員の研究活動では引き続き努力すべき点もあると考えられる。大学への貢献度や社会貢献という意味では、各自十分に取り組んでいると考えられる。</p> <p>教員各自の「教育・研究・大学貢献・社会貢献」については、2024年2月締切で2023年度の総括を提出していただく。また、特別支援経費への積極的申請を促す。</p> <p>2023年度の冠講座は「スポーツイベント企画運営：ジュビロ・静岡ブルーレヴズ」により、理論と実践の融合を目指した講義ができた。</p> <p>教員に教員人事評価の学部長面接を2024年4月に行うことを2024年1月に伝えた。</p>	<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●副学部長（和田）</p> <p>●事務局次長（甲斐）</p> <p>△企画調整室（川合）</p> <p>△総務課（山田）</p>	<p>2024年度冠講座である「スポーツイベント企画運営：ジュビロ・静岡ブルーレヴズ」が、「シン・スポーツinいわた」のイベントと協働できることを企図している。</p> <p>教員各自の「教育・研究・大学貢献・社会貢献」については、2024年4月に教員面接を行い、2024年度の活動も年度当初から計画的に行う。</p>

	最重要事項	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p>4. 教育の質保証とその可視化</p> <p>1)教育課程の準備状況の点検と確立を図る</p> <p>2)3ポリシーの組織的浸透を図る</p> <p>3)在学生の単位修得状況の把握と離学者対策を図る</p> <p>4)学業と運動部活動の両立を図るよう、教職員が一体になって支援する</p>	<p>4.</p> <p>“教育の質保証とその可視化”に関しては、2021年度の準備状況点検・3ポリシーの浸透を図った実績を受け、2023年度も継続して行う。特に、全教職員がアクティブラーニングを導入した授業実践を工夫し、FDや全学研究発表会やラーニングメソッド研究会の参加を通して、授業改善に励む。</p>	<p>4.</p> <p>“教育の質保証とその可視化”に関しては、各教職員が3ポリシーを確認し、アクティブラーニングを導入した授業を実践した。後期に開催されるFDや全学研究発表会やラーニングメソッド研究会に積極的に参加し、授業改善に励む。</p> <p>学生の学力保障という問題は、かなり難しい課題であると考えている。思考力を高め、社会に通じる基礎的学力の保障に重点を置くべきと考える。</p> <p>部活動中心の考え方を脱し、学業中心の考え方を、学生だけではなく、教職員においても意識改革の必要性がある。</p> <p>ディプロマポリシーの達成は、今後の学部のあり方に大きく影響を与えていくものと考え、初めての卒業生を迎えるにあたって重要視していく。</p>	<p>4.</p> <p>教育の質保証に関しては、各教職員はFDや全学研究発表会やラーニングメソッド研究会に積極的に参加した。</p> <p>ベストティーチャー賞に江間先生が選出され、和所先生は博士号を取得、伊藤先生がラーニングメソッド研究会で発表するなど若手教職員が活躍した。更に第23回秩父宮記念スポーツ医・科学功労賞に寒川先生が受賞した。</p> <p>新3年生のゼミ所属率が約9割になり、入学時からの教育指導の成果と言える。</p> <p>学生の学力保障という点では、学部スキーム自体は間違っていないのだが、総合的に評価すると、十分達成されているとはいいがたい状況である。完成年度以降の学部の構想やカリキュラムの改善などを含め、総合的に検討する必要があると考える。</p> <p>入学学生が、高校時代に勉学に取り組む習慣が十分育成されていないという実感がある。依然として部活動中心の生活を送る学生も多くみられ、修得単位数の不足や学習成績の悪い学生も一定の割合みられる。これらの学生への対応は学部だけではなくスポーツ振興部などとの協働で解決される課題を考える。</p>	<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●副学部長（和田）</p> <p>●教務委員長（徐）</p> <p>●スポーツ振興部部長（広岡）</p> <p>△教務課（中村）</p> <p>△スポーツ振興部（三浦）</p>	<p>2024年度の完成年度後の新カリキュラム作成に関しては、教務委員会の中にタスクホースをつくり、前期のうちに案を作成する予定である。</p> <p>2025年度教育課程におけるプログラムとして「保健体育教員養成・スポーツトレーナー・健康マネジメント」をおき、『2024大学案内』に掲載する。</p> <p>2025年度教育課程におけるプログラムの一つ「スポーツトレーナー」については、先行実施を試みる。</p>

項目別アクションプラン					
	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<教育>				
	1. 教育方法ではonlineと対面授業のバランスを図ると共に、情報機器を有効活用した授業を実施し、情報に強い学生を育成する。	1. 教育方法では対面授業を主としているが、遠隔とのバランスを図り、情報機器を有効活用し情報に強い学生の育成に励んだ。	1. 教育方法では対面授業を主として、コミュニケーション能力の育成や情報機器を有効活用して情報に強い学生の育成に取り組んだ。「静岡産業大学ダンスのタベ」にはダンス授業2作品を出展し、観客800名から高評価を得た。「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」認定申請に伴い、スポーツ科学に係る測定及び分析結果を提供した。	◎学部長(高橋) ●教務委員長(徐) ●教職委員長(佐藤) ●学生委員長(宮崎) ●スポーツ振興部部長(広岡) △スポーツ振興部(三浦) △総務課(甲斐) △学生支援課(井川) △教職委員会・教務課(中村)	
	2. 30単位の学部間履修を周知し、就職を意図した学びを推進する。	2. 30単位の学部間履修を在学生オリエンテーション等で周知し就職を意図した学びを推進した。	2. 30単位の学部間履修をオープンキャンパスや在学生オリエンテーション等を活用して周知し、「スポーツパーソンからビジネスパーソン」も意図した学びを推進した。		
	3. スポーツ科学部において実施される授業科目において、各教員の授業内容を共有し差異化を図る。	3. スポーツ科学部で定期的に行っている自由討議の機会を利用して、近々、授業内容の共有と差異化をテーマにした議論を実施する予定である。	3. スポーツ科学部で定期的に行っている自由討議の機会を利用して、授業内容の共有と差異化、学生生活に関連した課題を議論した。2024年3月の在校生オリエンテーションでは、警察による「薬物対策」の講座を開催する。		
	4. 施設及び設備の点検及び充実と管理体制の確立を図るため、関係部署(教務・総務・スポーツ振興部)との連携を密にして、スポーツセンター倉庫内の点検整理を2023年度中に終了する。 スポーツ施設修繕計画については「整備改革WG」が中心になり、陸上走路の改修を行う。 また、トレーニングルームやテニスコートの修繕計画を立案する。	4. 施設・設備の管理について、第1・第2スポーツセンター内倉庫の点検整理を上半期のうちに行った。スポーツ施設修繕計画については「整備改革WG」が中心になり、6月に50m陸上走路の改修工事の指名入札が行われ業者が決定した。9月中の施工を予定している。 静岡産業大学施設維持・管理検討委員会(仮称)を立ち上げ今秋から検討を開始する予定としている。委員会のメンバーは各施設等に関連する教員や事務職員のほか、公平かつ客観的な視点を求め、外部委員を加えることを検討している。	4. 施設・設備の管理については、第2スポーツセンターの冷暖房完備を行った。修繕計画については「整備改革WG」が中心になり、陸上走路の改修を行った。2023年度、直走路(50mタータン)の全面改修工事を完了した。また第3SCアリーナ設備の一部改修を完了した。 静岡産業大学施設維持・管理検討委員会を正式に立ち上げ複数回委員会を開催した。磐田・藤枝の両キャンパスで課題となっているスポーツ関連施設の更新やパソコン教室の更改等の検討が行われた。		
5. 主任アドバイザー制度を継続し、1~3学年まで担当教員を配置する。	5. 主任アドバイザー制度を継続し、1~3学年まで担当教員を配置した。	5. 主任アドバイザー制度を継続し1~3学年まで担当教員を配置した。			

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
	6. 教職課程の指導に関しては、入学前の教員養成キックオフカンファレンス、在学時の教職ランチミーティング、特別支援学校も視野に入れた支援に努める。	6. 教職課程の指導に関しては、入学前の教員養成キックオフカンファレンス、在学時の教職ランチミーティング、特別支援学校も視野に入れた支援に努めた。下半期には教職ゼミを開始し、教員採用試験に向けて準備する。 入学予定者を対象としたキックオフカンファレンスを実施し、入学後の教職課程の学修への動機づけの準備を行った。また、1年生を対象として毎月1回「教職ランチ」を開催、教職課程担当教員からの話題提供を行い、教員採用試験に向けた動機づけと継続的な学習習慣の形成を図った。さらに、23年度後期から教員採用試験突破塾を新規に開講する。	6. 教職課程の指導に関しては、入学前の教員養成キックオフカンファレンス、在学時の教職ランチミーティング、特別支援学校も視野に入れた支援に努めた。下半期にはSSU教員採用試験突破塾を開始するとともに、2024年5月から実施される教採に向けて、実技・面接試験も視野に入れて支援体制を整備した。 1年生を対象として毎月1回「教職ランチ」を開催、教職課程担当教員からの話題提供を行い、教員採用試験に向けた動機づけと継続的な学習習慣の形成を図った。特別支援学校での介護等体験実習にあたり、事前指導と事後指導を行った。特別支援学校教員への資質や関心のある学生に対し特別支援学校での学習支援ボランティアを紹介し、実践的に学ぶ場を提供した。		
スポーツ科学部	<研究> 1. 紀要第8巻の編集及び発刊は、学部付置のスポーツ教育研究センターが担当する。全教員の投稿を目指す。 2. 編集委員会機能や査読の厳格化は2022年度でほぼ確立したので、2023年度も同様に行う。 3. 特別支援経費の申請・決定・使用期間が単年度であるため不具合が生じており、少なくとも2年継続研究の可能性を探る。	1. スポーツ科学部の紀要第8巻1号への投稿は9本あり、編集は順調に進行している。 2. 編集委員会機能や査読の厳格化は継続して実施する。 3. 特別支援経費の受諾は6件なされた。	1. スポーツ科学部の紀要第8巻2号の編集は順調に進行すると共に、第8巻合本紀要の発刊を予定している。2025年度から紀要の発刊元は「スポーツ科学部」への変更が承認された。 2. 編集委員会機能や査読の厳格化は継続して実施する。 3. 特別支援研究経費2023年度6件の報告書作成と同時に2024年度の申請を促した。	◎学部長（高橋） ●スポーツ教育研究センター（宮崎） △いわた総合スポーツクラブ事務局（川合）	
	4. 倫理委員会は外部審査員も加えて年に2回online開催とし、倫理規定をクリアした論文の掲載を促進する。	4. 倫理委員会は外部審査員も加えて、上半期は7月に実施した。	4. 倫理委員会は外部審査員も加えて、下半期は12月に実施した。	◎●学部長・研究倫理委員会（高橋） △総務課（甲斐）	
	5. 科学研究費の獲得を目指す。 特に50歳代以下の全教員は申請する。 さらに、外部資金による研究費の獲得を目指し申請を行う。	5. 科学研究費の新しい獲得は1件あった。2024年度申請は9月11日〆切であり、50歳代以下の教員は申請する。東アジア文化都市2023静岡県地域連携助成を受けた。	5. 科学研究費の2024年度申請について50歳代以下の教員が申請した。東アジア文化都市2023静岡県地域連携助成については、「シン・スポーツinいわた」「静岡産業大学ダンスのタベ」の2事業が受けた。さらに上記事業に「ヨガ教室」を加え、財団法人日本安全協会が支援する補助金についても申請を行った。	◎●学部長（高橋） △総務課（甲斐）	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	6. SSUスポーツ・健康科学セミナー開催は2022年度は好評であり、2023年度もZoomウェビナー型セミナー開催を行う。その際、高校の生徒や教員、社会人にも情報提供し、入試広報とも連動して行う。	6. 下期に開催するセミナーの企画立案を推進した。多くの方に参加いただけるように、Zoomウェビナー型の開催を計画している。 スポーツ・健康科学セミナーは、下半期を中心にZoomウェビナー型での開催を行う予定である。2022年度と同様、高校の生徒や教員、社会人にも情報提供し、入試広報とも連動して行う。	6. セミナーについて学生募集戦略室の協力の基、高校教員を含めwebで告知した結果、北海道から沖縄まで反響があった。 下期に日本トレーニング科学学会学術大会において対面開催（1回）、Zoomウェビナー型セミナー（1回）を開催した。これらに高校生や高校教員が参加し、入試広報としての成果があった。	◎学部長（高橋） ●スポーツ医科学研究センター（中井） △教務課（中村）	
	7. 全教員は学会活動（論文投稿・発表・役員）や研究業績の蓄積に励む。10月の「トレーニング科学会」開催には学部を挙げて協力する。地域やプロスポーツ団体等の研究協力を積極的に行う。	7. 学内で学生を対象とした調査、測定を実施した。 近隣地域の高齢者の健康に関する研究活動に着手した。 全教員は学会活動（論文投稿・発表・役員）や研究業績の蓄積に励む。10月の「トレーニング科学会」開催には学部・地域・プロスポーツ団体・企業等の研究支援協力を積極的に行う。	7. 全教員が学会活動や研究業績の蓄積に励んだ。8月の体育・スポーツ・健康学会（立命館大学）では、多くの教員が発表・座長を務めた。 10月の「日本トレーニング科学会」に実行委員として協力した。 同会において、江間先生が代表として、学会会長をはじめ参加者から高評価を得た。	◎学部長（高橋） ●スポーツ教育研究センター（宮崎） ●スポーツ医科学研究センター（中井） △教務課（中村） △いわた総合スポーツクラブ事務局（川合）	
	8. スポーツ科学部設置のスポーツ教育研究センター及びスポーツ医科学研究センターの活動を推進する。これまでの「紀要・ニュースレター発刊・セミナー開催」はもとより、センターが中心となった共同研究の可能性を探る。	8. スポーツ選手のサポートに関する調査についての共同研究を検討している。 スポーツ教育研究センター担当の「紀要8巻1号」の発刊作業は順調に行われた。	8. スポーツ教育研究センター担当の「紀要8巻1号2号の合本」の発刊作業は順調に行われている。 スポーツ科学部教員の自然科学・人文社会科学系ごとに研究プロジェクトの可能性を探る。 学生生活調査、スポーツ選手のサポートに関する研究グループを設置し、研究計画を推進している。	◎学部長（高橋） ●スポーツ教育研究センター（宮崎） ●スポーツ医科学研究センター（中井） △教務課（中村） △いわた総合スポーツクラブ事務局（川合）	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p><入試></p> <p>1. 2023年度入試では、指定校とスポーツプレゼンテーション入試における合格者増が顕著であり、2024年度入試も継続して維持する。また、スポーツ推薦で入学した学生のGPAが高く、スポーツプレゼンテーション入試合格者は低い傾向にあるため、入学から卒業までの傾向を分析する必要がある。入試・広報の確実な実施のため、教職員（入試委員・入試課・広報メディア課・参与・受験生募集検討ワーキンググループ・学生募集戦略会議等）が一体となった会議を開催し、前例に捕らわれずスピーディな企画・実行を行う。</p> <p>2. オープンキャンパス（講演・体験授業・歓迎パフォーマンス・動画配信等）、出前授業・大学説明会（学生の動向や就職傾向）等、対象・時期に応じて、方法を柔軟に変更する。</p> <p>3. 入学定員120名以上150名程度を確保するとともに、女子学生入学率を上げる努力をする。</p>	<p>1. 2024年度入試においても、指定校とスポーツプレゼンテーション入試の合格者増に励む。また、スポーツ推薦で入学した学生のGPAが高く、スポーツプレゼンテーション入試の学生のGPAは低い傾向にあるため、入学から卒業までの傾向を継続して分析する必要がある。</p> <p>2. オープンキャンパスの工夫（講演・体験授業・歓迎パフォーマンス・動画配信等）、出前授業・大学説明会（学生の成績や部活の状況の伝達）等を通し、受験生確保に繋げるように、努力した。</p> <p>3. 入学定員120名以上の12月末までの確保を図り、県外並びに女子の入学率を上げる努力をする。</p>	<p>1. 2024年度入試の傾向を踏まえ、2025年度入試改革案①アリーディジョン入試②スポーツ推薦入試（トップアスリート推薦、マネージャー推薦）③社会人入試等を策定している。またスポーツ推薦入試については、スポーツ振興部と連携して対策を検討していく。</p> <p>年内専願入試での学生募集が重視されている近年の傾向の中で、この2年は年内入試で定員確保という目標は達成されている。県内高校は従来同様、県外高校への指定校推薦入試の拡大が功を奏していること、総合型入試での合格者数が増加していることが定員確保につながっていると思われる。反面スポーツプレゼンテーション入試とスポーツ推薦入試では、かなり減少傾向があるため、今後の改善策を策定している。</p> <p>2. 2023年度オープンキャンパスの参加者数は、対面方式の復活により大幅に増加した。講演会方式などを取り入れ、内容的に工夫された部分も多いが、必ずしも高校生の興味関心につながったとはいえ、さらなる工夫が必要と思われる。</p> <p>3. 大学の経営的に考えれば学生をたくさん入学させるメリットはあるが、現状の教育施設、教員数などを考えると一概に150名以上取ることが本当に好ましいことかを改めて考える必要がある。教育条件が悪くなれば、学生からの不満が増加し、卒業した高校への評判につながりかねないことも不安材料として検討しなくてはならない。</p>	<p>◎学部長（高橋） ●副学部長（和田） △入試課、高大連携・接続G（齊藤） △広報・メディア課（佐野）</p>	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p><広報></p> <p>1. 大学ホームページ（動画配信含む）、各メディア、広報誌への情報発信を積極的に行う。 磐田キャンパスでは、スピーディな広報活動を行うため、業者委託を含め、入試広報の協働と棲み分けを明確にする。</p>	<p>1. 大学ホームページ（動画配信含む）、各メディア、広報誌への情報発信を積極的に行うとともに、新たな業者委託を通じスピーディな広報活動を行った。</p> <p>他大学のHPなどを参考に、内容の充実はもとより、見せ方の工夫などの検討をしている。</p> <p>部活動の実績はもとより、教職員の活躍や業績など、あらゆるメディアを通じて積極的にかつ平等に情報発信していくことが重要である。</p> <p>大学の新たなイメージ作りを、お金を掛けて専門家に委ねる戦略も必要かと考える。</p>	<p>1. 2023年度より大学ホームページへの動画配信・撮影を業者に委託し、オープンキャンパスや大学説明会において積極的に放映し広報に励んだ。『大学案内2025』発刊については、入試委員（中井・宮崎・伊藤各先生）が中心になり実施。また、両学部長間の情報共有を密に行い、学部独自の入試（時期・方法・チラシ等）に反映するように務めた。</p> <p>他大学へのリサーチは入試委員会を中心として教員レベルではしているものの、それが十分生かされていない状況である。</p> <p>スポーツ科学部独自の広報を考えているが、経営学部と同時に運営しないと実際に稼働しないという問題点がある。</p>	<p>◎学部長（高橋） ●副学長（丹羽） ●副学部長（和田） △広報・メディア課（佐野） △高大連携・接続G（齊藤）</p>	

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p><地域貢献></p> <p>1. スポーツ・健康科学研究セミナー開催。</p> <p>地域の教育委員会（夜間中学や中学・高校への静岡産業大学学生ボランティア含め）や市民団体との連携による地域への啓蒙活動。</p> <p>「ジュピロ飯」の普及・推進。</p> <p>スポーツプラットフォームや新スポーツの創出の推進（本学部・磐田市・ジュピロ磐田・静岡ブルーレヴズ・アザレアセブン・ポニータ・プレス浜松）。</p> <p>広域レベルの各種活動との連携及び貢献を目指す。</p>	<p>1.</p> <p>磐田市社会福祉協議会と連携し、高齢者の健康増進について、講演を行った。</p> <p>静岡県内の部活動支援ボランティアや学校体験活動、青少年育成活動のボランティアに関する情報を収集・教職センターに掲示等を行い、学生の参加を促し、ボランティア活動を行った。来年度、磐田市内の公立小中学校で母校ではない教育実習を行う学生を中心に、教育実習前に学校体験活動を受け入れて頂けるよう、教育委員会との調整を行った。</p> <p>下半期のスポーツ・健康科学研究セミナー、10月28、29日の「トレーニング科学会」、11月25日の「シンスポーツフェスティバル in いわた」、12月9日の「静岡産業大学ダンスの夕べ」開催準備を進めると共に、地域の教育委員会（夜間中学や中学・高校への静岡産業大学学生ボランティア含め）や市民団体との連携を行った。</p>	<p>1.</p> <p>ジュピロ飯の普及・推進は継続して行った。</p> <p>静岡県内の部活動支援ボランティアや、磐田市内や藤枝市内の学校体験活動に学生を参加させた。磐田市教育委員会とは緊密に連携を取り、母校ではない教育実習を行う学生の教育実習の準備及び学校体験活動への派遣を行った。また小学校での主権者教育や教師塾への参加、磐田市PTA連絡協議会における講演等を行った。静岡県教育委員会には県下全域における学校体験活動の円滑な実施を要望し、次年度以降の体制作りをお願い、実現して頂いた。</p> <p>特に、下半期のスポーツ・健康科学研究セミナー、10月28-29日の「トレーニング科学会」、11月25日の「シンスポーツフェスティバル in いわた」、12月9日「静岡産業大学ダンスの夕べ」開催は地域に大きな貢献を果たした。また、地域の教育委員会（夜間中学や中学・高校への静岡産業大学学生ボランティア含め）や市民団体との連携を行った。更に2023年10月から始動した「ヨガ・ボディメイク教室」には地域住民の多くの参加があった。</p> <p>SSUスポーツ・健康科学セミナーを2回開催した。</p> <p>静岡ブルーレヴズとの研究協力を検討している。</p> <p>スポーツと健康に関するオープンイノベーションプロジェクトについて、検討を開始した。</p>	<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●スポーツ振興部長（広岡）</p> <p>●スポーツ教育研究センター（宮崎）</p> <p>●スポーツ医科学研究センター（中井）</p> <p>●教職センター長（松永）</p> <p>●総合研究所長代理（小泉）</p> <p>△スポーツ振興部長（広岡）</p> <p>△いわた総合スポーツクラブ事務局（川合）</p> <p>△教務課・教職委員会（中村）</p> <p>△総合研究所（山本）</p>	<p>より一層、磐田市を中心として教育委員会や市民団体との連携を図る。</p>

	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当者・担当部署	次年度以降に向けての修正点
スポーツ科学部	<p><就職></p> <p>2023年度は新3年生の企業へのインターンシップ、スポーツ選手のデュアルキャリア、教員採用も含め、学生の就職への啓蒙活動を積極的に行う。就職率確保では特に、鷺崎理事・学長補佐・キャリア支援課と連携し西部地区を中心に企業を回る。</p>	<p>2023年度は新3年生の企業へのインターンシップ、スポーツ選手のデュアルキャリア、教員採用も含め、学生の就職への啓蒙活動を積極的に行う。特に就職率確保では、鷺崎理事・学長補佐・キャリア支援課と連携し西部地区を中心に企業を回った。</p> <p>鷺崎理事、学部長、就職委員長、キャリア支援課等が定期的に集まり、状況共有を行った。スポーツ科学部生の進路を7つに分け、現状の希望先や要望などを調査した。それらをもとに、面接指導などを行ってもらうよう、教員に依頼した。</p>	<p>下期の就職率確保では、鷺崎理事・学長補佐・キャリア支援課と連携し西部地区を中心に企業を回った。SSU教員採用試験突破には、学生の積極的参加を得て、2024年5月への教採試験に向け周知している。</p> <p>「なるにはシート」を活用した学生の就職希望先の調査及びそれを活用した学生指導をアドバイザー教員に依頼した。フジ物産株式会社による、アスリート向けオンライン座談会を開催した（全5回）学内企業ガイダンスを開催し、学生への声掛けを実施した。鷺崎理事による企業訪問は34社にのぼり、キャリア支援課と連携してキャリアデザイン授業や学内ガイダンスに参加いただいた企業も出始めている。</p>	<p>◎学部長（高橋）</p> <p>●就職委員長（江間）</p> <p>△キャリア支援課（池ヶ谷）</p>	
	<p><大学運営></p> <p>1. 磐田キャンパスの経営学部と互いに協力・補完し合う組織的な学内運営を図り、入学者確保、ブランド力向上、就職率確保等の相乗効果を目指す。特に、「スポーツ経営」の専門領域や教員配置について、経営学部かスポーツ科学部に置くのかを明確にする。</p> <p>2. ランチミーティング（学長・両学部長）は開催せず、スポーツ科学部長が藤枝キャンパスに行った折に、定期的に学長に面談する機会を作る。</p>	<p>1. 採用人事における「スポーツ経営」の教員配置について、経営学部と協議を行った。また、完成年度後の将来構想については、将来構想ワーキンググループが主導して案を提示した。</p> <p>2. ランチミーティング（学長・両学部長）は開催せず、スポーツ科学部長が藤枝キャンパスに行った折に、定期的に学長に面談する機会を作った。</p>	<p>1. 採用人事における「スポーツ経営」の教員配置について、経営学部と協議を行い、スポーツ科学部が教員採用を行った。完成年度後の将来構想については、これまで将来構想ワーキンググループが主導してきたが、2024年度からは運営委員会内で行うこととした。</p> <p>2. ランチミーティング（学長・両学部長）は開催せず、スポーツ科学部長が藤枝キャンパスに行った折に、定期的に学長に面談する機会を作った。</p>	<p>◎●学部長（高橋）</p>	

	将来構想					次年度以降に向けての修正点
	項 目	2023年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2023.9)	下期進捗状況(2024.3)	担当	
スポーツ科学部	1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定（女性教員確保） ・完成年度に必要な教員数は13名であり、うち教授は7名である。	1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定については、2023年度に女性教員を確保できた。さらに、2023年度中に教授昇進を計画する。	1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定については、2023年度に女性教員を確保できた。さらに、2023年度中に教授や講師の昇進を計画した。	1. 完成年度（2024年度）の教員人事計画策定については、3名の新規採用教員の確保ができた。残念ながら女性教員確保はできず、1名が2023年度で辞職することになった。	◎副学長（田畑） ●学部長（高橋）	
	2. 将来構想ワーキンググループ（WG）開設 ・2022年度より開設し完成年度に向けて構想を練る。	2. 将来構想ワーキンググループ（WG）を強化するため、下部組織に教務と就職の担当者を加える。	2. 将来構想ワーキンググループ（WG）を強化するため、下部組織に教務と就職の担当者を加えた。	2. 完成年度後の将来構想については、これまで将来構想ワーキンググループが主導してきたが、2024年度からは運営委員会内で行うこととした。		
	3. 南交流センター再開発（200mトラックの設置等）の構想 ・2021年度も磐田市に相談したが、継続審議する。	3. 南交流センター再開発（陸上競技場等）の検討は継続する。	3. 南交流センター再開発（陸上競技場等）の検討は継続する。	3. 下半期は学生の駐車場不足に伴い、南交流センター駐車場の借用案について、今後も南交流センターと大学との協力関係を維持するため話し合いの機会（矢部センター長×酒井事務局長代理・甲斐事務局次長）を設けた。また、9月に南包括センター主催の「認知症セミナー」の会場として本学大講義室を提供し、両者の良好な関係維持を行った。	◎●学部長（高橋） △総務課（甲斐）	